

第九六号昭和卅九年八月三十日発行
毎月三十日一回発行 一部 十円
昭和卅二年十月十八日 第三種郵便物認可

拓水

9

目 次

	(神戸山手女子短期大学教授)	
「釣師の慢筆」	鈴木富太郎	1
釣 師	助川 助六	2
漁 港 (20)	佐竹 係長	3
	(水産改良普及員)	
養漁場の一日 (離れ島便り)	原田 正敏	5
水試ニュース		6
対馬だより	坂東 勝一	7
「天草共販」について	内海漁連 (共販課)	7
えんじにやコーナー	杉本 技師	8
昭和39年のイワシの漁況 (第報4)	浜田 技師	10

兵庫県漁業協同組合連合会
財団法人 兵庫県水産業改良普及協会

釣師の慢筆

神戸山手女子短期大学教授
元 兵庫 県 会 議 員

鈴木 富太郎

過日、県の三上水産課長さんと雑談の際、何か釣慢談との仰せ。嫌いなことでもないので快諾した。

私は数十年来竿釣りを楽しんできた一人、今なお、川、池、磯釣り、キス、ベラ、タイ、ハマチ程度の船

釣りもずつと実行、まあ一言で告白すれば釣マニア？従って、自分の行先には釣具も必ず同行活躍、戦前の

樺太、北海道から九州、四国の隅々には勿論、佐渡、隠岐から伊豆諸島までかなりやってはみたが、何十年た

っても腕はずぶの素人で、人を驚かす程の大漁は未だにあこがれの夢。

小浜辺から城崎、浜坂、諸寄などの日本海だけでも年六、七十回は文字

通りのお百度詣りをしているのだから、実はもう少々御利益あらたかであつてもよい筈なのに、どうもチ

ヌ、スズキなどの大形からはさっぱり同情されない。だが、まあ考えてみると、相手方の命を頂戴するのだから、自分のそれに類推して試してみても

そうやすやすとこちらの希望を叶えてくれないのも道理だ。

私のような不束かな釣師の釣にも来てくれる捨身のお客様だけを相手にしましようか。私の釣哲学は、誰様にも実行可能なる。

撒く餌に

飽いて捨て身の

やから釣り

さて、近年何処の釣場でも、かつてのように来てくれない。よし釣れても形が小さくて数も減った。船頭

君らと同乗して外へ出れば、相当量の獲物のあることは勿論だが、その功績の九割は先方であり、竿、磯釣り

りで、魚群の有無、相手の意向など五里霧中である場合のそれとは、獲物を手にした時の満足感が全然違

う。初心者は船釣りでも満足できようが、海千山千のしたたか者はそうはゆかぬ。

近くの磯で以前程釣れなくなったことは全国的事実だが、それには種々様々な理由がある。身近かな例から

らみても、素人釣りが盛んになつて、伊豆、房総、三重、南紀、四国

周辺から九州各所、島根から能登、

新潟方面に至る何処へ行っても、女性の交った、家族連れの、半ば行楽気分の釣行が激増したことが一因。しかもこれら連中は、行楽だからというので、餌の値段など度外視

した最優秀品をふんだんに持参して無闇に撒き散らしてくるので、小エビの塩漬や、せいぜい地ゴカイ位

を餌にするわれわれ常連の場合とは、海中で危険逃避にぬけ目の無い相手方の待遇がちがう。ともあれ、

釣行人間増加で魚の数は減った。沿岸人口の増加、行楽者の急増、釣技術の進歩などは、魚族増加の比では

なくなつたらしい。勿論、これは海においてだけでなく、河川、湖沼、灌漑用水池などに

おいてもまた然り。そうそう最近淡水釣関係で、農薬に禍いされ、殆んど全滅状態に陥った川や池の多いこ

とも周知の事実だ。アユの如きも放流なしでは全然駄目の現状だ。

だが、つらつらおもひみるに（といいたるところ）、釣る人間がふえたから魚が減つたなどの推理は屁

の価値もない。玄人、素人釣師は確かにふえた。が、この種の人達の撒く寄せ餌で、間接に養成増殖に貢献

している実態は、釣りあげる実数量などより比較にならぬ程大きい。竿

釣りの釣にかかる魚の数など、海川何れでも話にならぬ程少ない。谷川、野川で農薬や人工（犯罪的）漁で、どんなに魚が死滅しつつありや

読者諸賢は御存知？沿岸における魚の減少は、いうまでもなく新案漁網の発達と、人口増

加に伴う自然要求量からくる捕獲の増大による。その道の専門家には、かかる事象は私のような素人のいう

をまつ要なし。私は、各地へ遠征して、到る処で漁師君らの魚数減の歎声を聴くが、

これに対して、諸君は何故網目を大きくして、稚魚保存養育に留意しないのか。来年、再来年には、三倍、

五倍の水揚げが可能ではないか。近い将来の利益は銀行の利廻りどころか、株式の儲けにも比すべきではないか。惜しいことだ。何故網にはい

ったからといって、眼にはいるような稚魚を売買して、来る年の自縄自縛をあえてするのか。何故市場にお

ける稚魚売買厳禁の励行、殊にこの関係から、底曳網による乱獲を自

制、相互牽制しないのか。某府県某漁業区などでは、すでに申し合せ制限を厳守して、エビ、カニ、貝類などはいうまでもなく、他の魚類についても自制操業しているのではない

か。と、散々苦言を呈している。漁師君らは異口同音に

末の百より今五十です。今日の米代が何より重大事です。自分達だけ順法自制しても、近漁区、隣接府県の輩が不法密猟するのだから駄目です。侵されるだけですと答える。改善結構、望むところです。だが現在では詮方なしです。とくる。なさない事実だ。

私は、漁師君らによくいう。神武時代以来、捕る一方で、補なわずに増えも続きもするはずがない。山林でも、伐る一方なら忽ち裸山になる。植林してはじめて山林の命は続く。諸君は、只今までにどれだけ魚群を保護養成しましたか。現状のままでは、裸山の山仕事同様、日当ならぬ漁場になりますよ、と。

私達の幼い頃には、鯨も三陸沖で獲れ、サケ、マスからカツオ、ブリ、マグロなども近くで豊漁可能であった。今は……。日本のように海岸線に最も恵まれた国では、この天与の特長に留意して、貿易に、国交に、さらに身近な問題たる食資料などにおいても、南北に相当変化ある水温の地域差の効用、国民挙げて魚肉嗜好の傾向をもつ等々の点から、沿岸水域の利用には一層の努力

を払うべきであると痛感する。最近、当局者達が、養魚に、栽培漁業に努力し始められたことはまことに結構なこと、漁業者達自身も長い夢から覚め、こぞってこれに協力すべきだ。関係者全体の共同の力でやれば、かつてのように、否それ以上に、沿海が魚族であふれる程に善化され得るのだから、法規面で、操業面で、渾身の努力をもって前進されることを祈る次第。

私は、かつて北海道の十勝平野から帯広経由、襟裳岬への途次、広尾近くの海岸でアイの投げ釣りを試みた。その折、沿岸の砂浜一帯に海草(大阪、東京方面で加工販売される昆布)が干されているのを見、また足許では、垂水平磯灯台附近で、わかめ栽培採取が年と共に隆昌化するのを目撃し、かつて明治大正の頃、千葉の沿岸海水浴場附近が浅草海苔の本場であり、私はまた当時毎夏浜名湖のかき棚の間で、チヌ、ウナギなどの釣りに幾晩徹宵したかわからないが、その水域がカキだけではなく海苔の生産にも適している事実などを目撃して、日本の沿岸海草の林が必要であり、国策であることを痛感した。日本の人口増加にともない、大戦直前の夢のように、海外に

農工場地を獲得しようなどとして問題を起すよりは、耕地不足の面を補強する意味で沿海水域を食用海草林に充當、培養すれば、食糧不足を補うに最適策の一つに違いない。

専門家によれば、海草はビタミンに富み、カロリー豊かなりとのこと。食品化学の進歩と共に、海国日本では、この面に急速の研究進歩を見ましようが、最近当局並びに漁業専門家達も着々善処されつつあることは、まことに賞讃と敬意とに値する現象。海藻の繁茂する辺りに魚族は群集し、繁殖する。磯釣党のわれわれには幸甚と称すべき兆し(きざし)ありです。とにかく、漁業者諸君の将来に輝きある施策措置の速かならんことを祈念しつつ擱筆。

(新日本民謡)

釣師

助川助六

瀬じり瀬がしら
瀬だまりに
誰もしらない
さぐり釣り

そつと横目の
目のふちで
女釣師の
顔を見る。

まさか、まさかの
男から
わざと離れる
水の影響

糸がからまる
かしざおに
なぜか、ホンノリ
赤くなる。

男ざかりは
女に弱い
伽羅の匂いに
なお弱い
暑い日中の
ビールの泡は
すぐに別れの
味となる。

泡



漁

港

(三)

研究課題

コンクリート工事について

第二十一節 コンクリート工事の責任者

工事責任者に帰すべきもの

コンクリート工事の失敗の原因となるものの多くは、工事の責任者による、つまり各担当者がコンクリート工事に対する根本観念を軽視している。言葉をかえていえば、コンクリートの工事に対して興味が少なくその出来上がり、即ち結果に対して責任を回避しているものが多い。

よって権限を有する設計者並びに監督者は、良好なコンクリートを得るためには、材料、設計、配合、運搬並びに打ち方及び養生などについて前述の特別の注意に対して賢明な努力と誠意の必要があるということを確認しなければならない。
設計者の責任に基づくもの
設計者の責任に帰すると考えられるものを列挙すると次のとおりである。

1 不適当な配合によるもの

コンクリートは一種の鑄物であるから、複雑なる構造の鑄型とすれば、必然的によい出来上がりとはならないものである。またコンクリートは溶鉱と同一視すべきものであるから、流れよい溶鉱即ちウォーカブルなものであれば結果がよく、然らざれば結果が悪いのは当然である。

然るに如何なる場合も、配合一：二：四を万能の如く心得、常に同一の配合として仕様書に書き並べられるのは、設計の不備と称してもよいとされる。かかる場合には富配合とするか、他に良質の混合物をまぜ、もつとウォーカビリチーのよいものとするのが肝要である。

2 鉄筋量又は鉄骨量の過多によるもの

特に多量の鉄筋を挿入せるもの、又は鉄骨構造の被覆コンクリートにあつては、コンクリートの入り込むべき十分の余裕があるが、特

にウォーカビリチーのよい配合でなければならぬ。これに対しても常に尋常一様な配合としているのは、同じく設計の不備に帰すべきものである。

3 ウォーカビリチーの認識不足によるもの

特に急速施工を必要とし、高さ6〜9メートルの高所からコンクリートを注入しようとする場合は、分高の機会を多くするものであるから、これも又良配合にして、特にウォーカビリチーにつき考慮する必要があるべきであるが、殆んど凡ての仕様書は、これらの場合に処する方法を考慮しておらないが注意すべきである。

最近ランプテストはウォーカビリチーを表示するものとして唱導され、ランプの大なるものは、粘着性の有無にかかわらず、ウォーカビリチーの大なるものと思ひ込まれている傾向がある。のみならずウォーカビリチーは構造物の形態や、施工設備方法などによって異なるものであることなども考慮されない向も少くない。この結果として豆板、空隙、レイタンス、弱いコンクリートなどをつくることが多いのである。

これが予防はウォーカビリチーの研究に待たなければならぬのであるが、今日これが確実に測定し得る方法もなく、現在までの研究では、その測定方法としてはレモールズングテストが、今日の施工設備方法におけるウォーカビリチーを最も明らかに表示されるものとしてゐる。

4 鉄筋不足のため 生ずる亀裂

入口、窓などの開孔部の隅に生ずる亀裂、大面積の壁パネルの亀裂、煙突、煙道その他過熱部分に対する亀裂などは必要な鉄筋量の不足に帰因するもの即ち設計の不備によるものが多い。

5 養生及型枠取外しの時期と強度との関係

養生と強度との関係が無視せられてゐることも少くない。例えば厳寒時におけるコンクリートも夏期におけるコンクリートも、何等区別なくして、同一の強度を要求しているのが随分多い。また型枠の除去の期日は強度に影響すること大なるものなるにも拘らず何等考慮せられていないのを見る例が多いが、かかる場合は設計において特別の考慮をほらうべきである。

6 請負者の選定

わが国における請負者中には、コンクリートに対して理解のあるものもあるが、全く無いものもあるのが現状である。従って悪い定評のある請負者と知りつつ工事を委託したならば、これはむしろ設計者又は施主が責任を負うべきものである。

材料製造業者、材料供給者の責任に帰すべきもの

最近セメントの製造は著しく発達を遂げたため、セメントの不良に属する失敗は殆んど見受けられない。製造月日の記載なきため、貯蔵期間の不明瞭のため、構造物の強度の減少を来す責任は誰が負担すべきかという点、製造者もその責任の一端を負うべきものである。なお、以前は凝結の早きに失するもの、長期に亘って硬化進行せざるものを、偶々発見することがあったが、最近は全く見当らない。

砂利及び砂などは、コンクリートに関する知識のないものが取り扱う現状であるから、これらの品質の不良に原因する失敗は、むしろ施工者の責任として問われるべきものである。

監督者の責任に帰すべきもの

工事監督者は、設計図及び仕様書

を活用すべき責務がある。即ち工事の実際問題を取り扱うにあたっては必ずしも設計の通りに行ない得ない場合も多々あるものである。かかる場合に当って、適当な判断を下し得ず、設計のみに固守して、その結果として失敗を招くことも少なくない。

例を挙げると次の通りである。

1 砂利又は砂は仕様書通りのものでも、余程厳密に精選しないと、配合してみた結果、多少思わしくない結果となることが多い。そして変えた方がよいことが間々ある。況んや一般の仕様書通りにやったからといって失敗することが少ないとはいえない。

2 設計書の文句を分析もしないで、そのまま取り入れたために失敗することも相当に多い。例えば、関東方面の砂について粗目勝ちと書くのは一般である。然るに関西方面においては、殆んど凡ての砂は粗目勝ちであるからそのままに解釈するときは、粗目勝ちに過ぐる砂を選定することになる場合が多い。

3 強度にのみ重きを置いて、ウォーカーカビリチーを無視することも少ない。

コンクリートの強度は水セメント比の小なるを可とするとの説を聞き、そのまま取り入れて、硬練りに過ぎるコンクリートとした。それがため空隙のみのコンクリートや、鉄筋の露出するようなコンクリートを造ることも少なくない。

4 粗粒の砂利は強度が大であるという説を聞いて、これを信じて被覆の厚みや、鉄筋間隔などには何等お構いなしに使用を命じて前述のような空隙空間のみのコンクリートを製造することも、珍しくない事実である。

5 ウォーカーカビリチーに対して認識の足りないもの多いことは前に述べた通りである。殊に、実際に直面して即決を要する場合に、誤った判断を下されることはしばしば見受けるところである。

6 後述する施工者の犯し易いしくじりの中にも、監督者の判断や指揮によるものが多いから、その誤りの一部の責任は監督者において免れることはできないものと思う。例えば、養生に関するもの如きはこの一例である。(次号は第二十二節施工者の犯し易い失敗)

NEC の技術を誇る画期的な沿岸漁業用魚探機

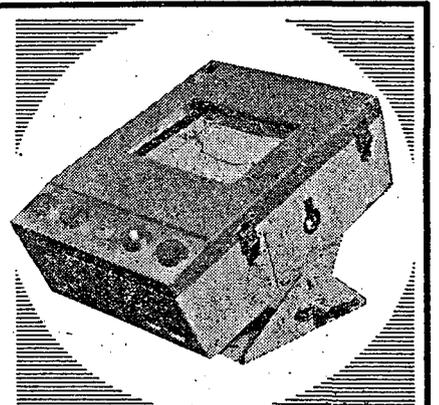
オールトランジスタ
FC 10
無接点方式

小型の価格で

大型の性能

海上電機株式会社

本社 東京都千代田区神田錦町1-19 電話東京(29) 2611-3・8181-3
神戸営業所 神戸市生田区明石町32(明海ビル) 電話(3) 2628・3701 (39) 2380



養魚場の一日

(水産課普及係家島町駐在)

原 田 正 敏

船は威勢よく白い航跡を残して走っている。夏の夜の明けけるのは早い。まだ六時前というのに、東の空には今日の暑さを思わせる太陽が、水平線のかなたの雲を赤く染めて輝いている。誰も眠むような顔をして、ぼんやりと坐りこんでいる。

やがて養魚場に近づく。泊り組が冷凍イカナゴをとかし、ハマチに餌をやる準備をしている姿が段々大きくなる。眠気は吹っ飛んでしまい、一せいに立ち上がる。誰の顔にも、ほかの者に負けぬものか、という活気がみなぎっている。

こうして、養魚場の一日が始まる。餌船のまわりには、何万もの、腹を減らしたハマチが渦巻いている。「ソレッ」と、イカナゴを振りまくとハマチがイカナゴめがけてはね上がる。ザッ、ザッ、餌を撒く度に、波しぶきが音をたてる。もうこうなれば、ハマチの食欲と人間の

力とのたたかいだ。見る見るうちに何トンも用意していた餌は無くなってしまう。バサッと音をたてて沈みはじめると、もう腹八分程度になつたとみてよい。それから、しばらく餌の喰い方をみて、第一回の投餌が終わる。

もう八時を廻わり、陽は高い。陸から

「オーイ、飯の用意ができたぞ!」と声がかかってきた。

気持ちよく働いた後のみそ汁は、胃袋にしみわたるようになりまい。しばらくは、腹の中に飯をつめこむことと熱中しているが、やがて仕事の話になる。一日の仕事の打合せが、このときにまとまる。

「オヤッサンよ、わしと誰々は、あの網の破れをみようかの」

「おー、誰と誰とは、次の餌の準備をしとけよ」

「誰と誰は、餌を冷蔵庫へ取りに

行けよ、ついでに、潜水夫を頼んでおかんと、網替えがでんぞ」と、いった調子である。とにかく、皆の気が合っていないてはならない。オヤッサンは、養殖をやる前は底曳を、その前には延縄をやっていた時々、オヤッサンの昔話がでる。若い者が、辛さに音をあげた時にである。

「昔、わしのオヤジが生きとった頃はのう、まだ船は機械じゃなかった。櫓を漕いどった。天気がええ日には、夜も昼も寝ずに働いて、一週間も家に帰らんことがあった。沖には、旗を立てた生船がわしらを待つとる。とれた魚を生船に売っては、米、醤油、みそなどを仕込み、また、そのまま櫓を漕いで漁に出たもんだ。櫓を漕ぎながら網を繰り、網を繰りながら飯をたく、風の強い日には、飯がで飲んで困ったぞ。あの頃のたきもんは、硫黄じゃったのう、眠りながら仕事をしたこともあったのう……」

それと比べてみい。仕事はえらいかもしれないが、夜は寝られるんやから、文句がいえるか」というのである。

皆が苦しければ、それ以上にオヤッサンも苦しい。今まで、これだけ

大きな商売をした経験はないし、小さな所にもまで気をくばらなくてはならないという精神的な悩みが大半を占めているのである。獲れた魚を組合に持って行き、伝票をもらって金を受けているといった今までの商売の方が、どれだけ気楽だったろうか。

この養殖を始めてから、オヤッサンの額には、シワが三本ふえたはずである。色もますます黒くなった。しかし、目だけは、生き生きと輝いている。

十一時頃になると、第二回目の投餌が始まる。真夏の太陽は容赦なく照りつける。薄い下着をとおして肌がやけ、汗が流れ落ちる。暑いなどといっている余裕は全くない。

ここでは、人間様よりハマチの方が大切にりあつかわれる。大切にされるだけではなく、ハマチに対する愛情も生まれる。

「わしら、このハマチだけは、よく食わんなあ」

と、誰かがつぶやきながら餌をやっている。全ての漁業者が、これだけ魚を大切にすれば、資源がどうのこうのということあるまいと、思ったりする。

ハマチが満腹してから、人間様の

昼飯が始まる。部屋には、イカナゴの匂が充満しているが一向に気にならぬ。

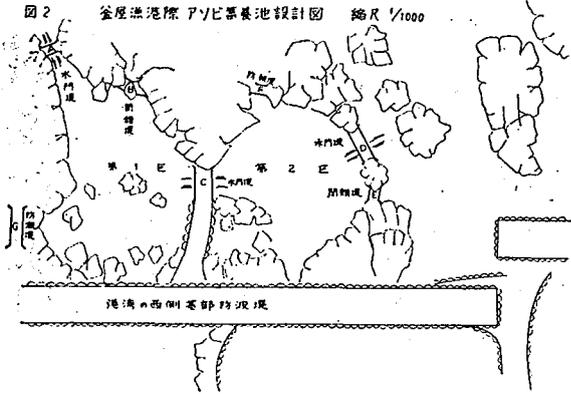
陽が傾く頃になってやっと一日の仕事が終わりに近づく。まだ餌をやっている泊り組を後にして家路につく頃には、夕やけが美しく空を染めている。明日もまた暑いだろう。船が港に入る頃には、あたりは薄暗く一番星が輝いていた。

水試ニユース

アワビの蓄養試験始まる

— 諸 寄 —

但馬沿岸の浅海漁業振興対策の一



部として水試、では研究グループを中心とするアワビの蓄養試験の指導と種苗生産試験にのり出した。場所はもつとも適地と目される釜屋漁港が選ばれ岩礁地形を利用して三ヶ所に水門を設置(別図参照)、蓄養池を造成して飼育する。材料はすべて地元産のものをを用い、個体識別のため番号標識を付着し、各個体の成長度の測定、生殖腺の消長等を調査するほか、食性、摂餌量、昼夜移動等の生態観察は毎日つづけられることになる。

但馬における傘型コンクリートブロックによるワカメ養殖

沈設第一陣実施

— 竹野、柴山、三尾 —

ワカメ増殖投石事業にかわって、本年から前記の三地区でワカメ種糸を培養し、直径八十糎の傘型コンクリートブロックを五百〜五百五十個にそれぞれ種糸をまきつけ、四〜五mの海底に沈設して養殖を行なうことになった。種糸の巻付けと沈設は芽胞体の発芽した十月末が最適期であるが、三尾地区は海況の関係で約半数を八月十八日から沈設する。詳細は次号で。

ハマチの人工餌料試験の現況

— 福 良 —

水産庁指定の人工餌料及び生餌の配合によるハマチの飼育試験が、去る七月中旬より福良湾において開始された。主な調査項目は、成長度、魚肉の成分、脂肪の含有率等の分析及び血液採集調査等を行なっている。将来、ハマチの品質向上に一役買うものと期待されている。

兵水式魚類人工乾燥機各地で建設中

— 但 馬 —

製造課指導による乾燥機の施設現況は次のとおり。なお完成は八月末から九月にかけての予定。

- 柴山港咲花商店(一基施設中)
- 香住町漁協(二基施設中)
- 柴山港漁協(二基施設準備中)
- 香住町竹内寅造商店(一基施設中)
- 香住町西川勇商店(一基施設中)

漁船機関士講習会およる

— 香 住 —

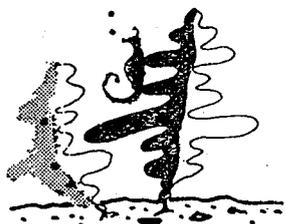
去る七月中、香住町(漁業センター)において開催されていた水試主

催の漁船機関取扱技術の修練会は無事終了し、講習終了後、神戸海運局の臨時国家試験(内燃丙種機関長)を全員受験した結果は次のとおりである。なお今回は但馬地区において初めての筆記及び口述試験であったが、他地区にくらべ合格率は上々であった。

受験者 三十三名
 不合格 八名(うち身体検査三名、筆記五名)
 合格 二十五名

沿岸魚類蓄養施設に御注告!

最近の水温の上昇は異常で、そのため酸素不足等により各蓄養施設においては、魚類の斃死等が目立っている。これらの管理についてはできるだけ水かわりのよい場所を選ぶことが先ず第一、生簀の清掃等にもとくに注意されることを望む。



対馬だより

昭和二十八年より対馬へ出漁されその後同地に定住されている坂東勝一氏(旧姓村上氏、南淡町福良出身)より、次のように元氣なお便りが水産課小黒係長あてに参りました。

日韓漁業交渉の妥結が期待されている折柄、対馬出漁をあらためて見直す時がきたと思います。

同氏は、当初無動力船(〇・七三トン)で出漁され、その後長年の御苦勞が実を結び、近く五トン級の船を建造のことで、更に同氏の御発展を祈ってやみません。

(前略)

毎日の炎暑続きに芦ヶ浦の水道は時間給水を行っておりますが、結構な事には、浜黒(宿舍の土地名)だけが濁水をまぬがれております。これも兵庫船団の御蔭と土地の人は有難く思っております。

対馬も貴方が渡対された時と八割程度改革され一日一日と進展しております。(町は町なりに、村は村なりに)。芦ヶ浦、厳原間は、バス道路こそ通じて居ないが、タクシーで東浜小学校(芦ヶ浦)の下まで来ら

れる様になり、宿にて宿泊する者がなくなりました。井戸から汲上げの水道から簡易水道にと芦ヶ浦も小船越、鴨居瀬と合同にて簡易水道を行う事になり、本年十一月から着工の予定です。又、対馬縦貫道路も測定して、四年後には、厳原―鶏知―各所を通して、芦ヶ浦―賀谷―濃部まで通じるらしく、テレビの普及もほとんど行き渡り、芦ヶ浦も戸数の約七割位据えております。

海の方は、船は次第に大型化され、ほとんどがディーゼルになり、焼玉電着が姿を消しました。各船、集魚灯をそなえ、一年中ほとんどイカ釣りになりました。一分間に何千匹という漁獲も出来、内海の漁夫の想像もつかぬ事だろうと思えます。

今まで、馬鹿にしていた夏の剣先イカも、人々の研究と努力によって、期間こそ長いが冬の松イカ漁につぐ水揚げとなっております。御承知のとおり、今剣先イカ漁ですが、今夏は雨が少なく、又二重汐の関係で、なだには釣れず沖ばかりです。赤島から一時間半から二時間走りよる沖の地点で、私のヤンマー十馬力では充分な働きが出来にくく、大型六十、四十五、三十馬力がほしいだけの操業をしております。佐野(津

名町佐野)の平岡氏などは、四十五馬力にて、獲った魚を自船で内地航海としております。

私も皆々様の御指導により、やっと根を下すようになり、今冬の松イカ漁の都合で、五トン級の船でも造り、漁閑期には、五島、平戸、博多の方に出漁する計画を樹てております。芦ヶ浦漁協も賀谷漁協と合併して東海漁協として三十八年の三月から発足しております。

(中略)

対馬出漁が下火になり、誰もが忘れ勝ちなのに、関原様(元 淡路海区漁調委事務局長、現 明石市農水産課水産係長)が何時も激励のお便り下され、妻と二人で心から感謝しております。九月中旬頃から、秋の松イカ時期に入りますが、漁期は天候が支配いたします。昨年などは天候がよく、私が二十一日間の操業で十六万円程の水揚げがありました。

まだまだ書きたい事がありますが、今朝沖から戻ってまだ一睡もして居りません故、今日は之にて。

(原文のまま)

長崎県下県郡美津島町芦ヶ浦

坂 東 勝 一

天草共販

一三、〇〇〇貫を上廻る!!

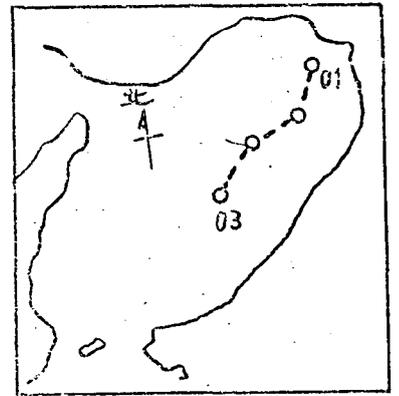
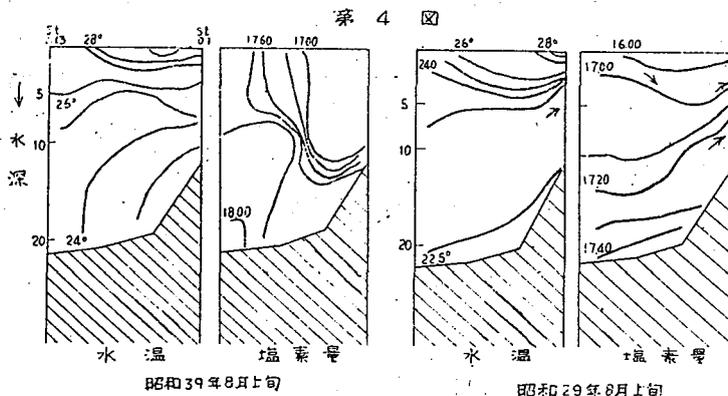
内海漁連共販課

前号にて本共販の概要について述べたが、その後、生産は極めて順調に伸び、価格面でも強含みに移行しており、八月十日現在における本会の扱高一二、二〇〇貫(八三〇〇千円)で、既に、昨年の二倍以上、本年度予定計画を上廻る実績をあげており、今後も大いに期待できる見込みで、出荷組合も更に増えて、

由良三組合・岩屋・野島浦・富島・浅野浦・育波浦・室津浦・沼島・飯屋・伊保各漁協組となっております。

関係組合のこの上の御協力を特にご依頼します。





らはその混合率は変動せず5~10%程度で、昨年同期(80%)のように大量の出現はみられない。

4-2、マアジ当才群が比較的少いのに対してマサバ(全長15~20cm)はかなり多く、6~7月は10%内外の混合率を示したが成長にともないやや減少の傾向にある。

4-3、7月下旬頃から巾着網などでサワラ若魚(20~30cm)が獲られはじめ、例年よりやや早い出現で、入網数も多い模様。

4-4、淡路西岸では7月中旬からマルアジの一本釣は好調で1日1隻当15~20Kgの漁獲、全長25~30cmのものである。淡路東岸の底曳網でも混獲されているが、魚体は15~20cmで西岸のものより小型である。

(5) 今後の見通し

5-1、カタクチ大羽群は大阪湾中~南部、播磨灘では南部域に偏っているが、紀伊水道でもかなり魚群が多い模様なので、水温下降期となる9月中旬頃までは現状を維持するものと思われる。

5-2、カタクチ当才群は、外海春仔群が5月~6月上旬にシラスとして内海に來遊したが、この量は例年量をやや下廻るものと推定されるので、その成長群の漁獲は少い見込みで5~6月に紀伊水道及び内海で発生した群が8月下旬~9月上旬には北部沿岸域で出現し始めるものと考えられ、特に播磨灘では期待される。一方太平洋南区の夏季産卵量は多いので、(南水研)、これらの成長群が内海の秋漁に添加される可能性も強い。

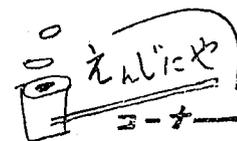
5-3 イワシ網によるアジ、サバの混獲は8月以降も持続するサバは前報通り成長にともない減少傾向にあり、アジは多少増減があるとしても一応今までの混合率で出現する模様。

5-4 長期傾向と一致する現象として、紀伊水

道、海部沿岸、日向灘で、ハモ延縄の好漁が予想される。(南水研) 以上

参考資料 徳島水試(7月速報)
和歌山(第3報)
高知(7月速報)
南水研(第6号予報)

(水試 浜田)



リーマーボルトのこと

リーマーとは、もともと孔の直径を定められた正しい寸法に仕上げ、内面を平滑にする道具の名称である。精密に仕上げられた孔に差し込まれるボルトも当然この内面に密着しなければならない。そこでこのボルトも丹念に仕上げられることからリーマーボルトと呼ばれている。孔に対して経にゆるみがないから、衝撃に強く、取付け心を正しくでき、とくに力のかかるところ、中心線を正しく保たなければならない個所(クランクピンボルト、フライホイールやカップリングのつなぎボルト等)に使われる。材質は使用部分により良質の鋼鉄、特殊鋼、炭素鋼等が用いられる。(S)

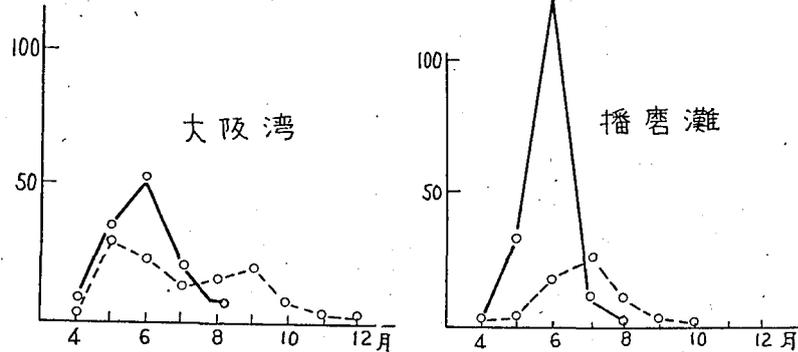
湾より2旬程おくれること、産卵魚群の出現状況から秋(9~10月)の盛期はほとんど認められない。今年の産卵状況を例年と比較してみると(第3図)、大阪湾ではやや例年を上廻る程度であるが、播磨灘では前報にも述べたように過去10ヶ年の中で最高である。一般的には産卵量の多いことから発生量もまた多いことが期待されるが、常にこれが一致するとはいえず、産卵期の遅速、産卵期前後の海況条件、他魚種の消長によって予想外の結果をみる場合もある。現在のところでは、産卵魚群の増減と税動、当才魚の出現時期についてはまづ適確に予測される。

この状態は太平洋高気圧が優勢で、南寄りの風が多い間は変化しない。

水温、塩素量鉛直分布(大阪湾西1湊より西南西15湊)

第4図には豊漁年であった昭和29年と、今年8月上旬の大阪湾北東海域の海況を示した。今年の場合にはまづ典型的な当海域の夏型分布を示しているが、29年は表層と下層の間で水塊の混合が認められ、沿岸では下層水の湧昇によって沖合との水温差は小さく、高温水塊は縮小している。このような海況は北~北東の風が連風することにより惹起され、この時期としては悪天候後に認められる。8月上旬の魚群調査では両海域とも中部以北

第3図



一曳網当採集卵数の変化※実線.....本年点線.....例年

(3) カタクチ魚群の出現状況

3-1、産卵群(大羽群)

(2)で述べたように両海域の産卵は一応盛期を終え、現在(8月上旬)大阪湾では中部以南、播磨灘では南部へ税行し漁場を形成している。この群は5~7月にわたって両海域の北部まで洄遊し産卵を行ったもので、産卵終了と水温上昇によって南下し、紀伊水道の魚群と接触して、海況の変化により幾分北上或は南下する状態にある。

例年、7月下旬~8月中旬には高水温のため魚群は南偏し、かつ外海からの加入も停滞する傾向を示すが、好漁の年は、この時期でも北部に漁場を形成する海況が認められる。

大阪湾北東域は、餌料プランクトンや海況条件から比較的安定した漁場を形成しやすい海域であるが、盛夏の頃は、上層(この海域は5m層以浅)と下層は高温低かんの2水塊に成層している。このような水塊分布となったときは上下層の混合がみられず、魚群は沖合に停滞する傾向がある。

で5~7月の間多く記録された魚群はほとんど認められず、まれに記録されても淡小群で、主群は中南部で記録された。

3-2 当才群

前報までに漁獲された当才群はシラス、カエリ、小羽までのもので、7月中旬には最も成長したもので7.5cm前後に達している。大阪湾で6~7月に大羽の産卵群と混獲され、7月までの漁獲魚は例年の6割程度で8月上旬のものはかなり肥満している。播磨灘では現在までのところまづ順調な漁獲をつづけ、7月中旬頃から内海発生の子仔群が出現し始めた。大阪湾では8月上旬まで新たに当才群は現われないが、前述の海況が変化すれば、除々に当才群の漁獲は増大するものと考えられる。

(4) イワシ漁況と関連する他の漁況

4-1、カタクチと混獲されているマアジ当才魚は7月にやや増加の傾向がみられたが、下旬か

昭和39年のイワシ漁況 (第4報)

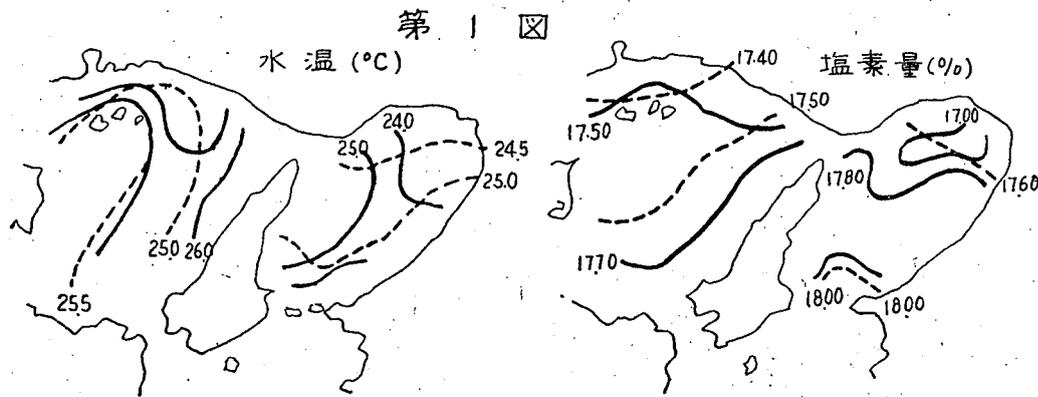
— 水産試験場 —

(1) 8月の海況

大阪湾、播磨灘における8月上旬の海況は、大阪湾では表層平均水温27.5°C、10米層24.7°Cとともに例年水温と変りないが、湾奥の北東浅海域

位置に復している。これは紀伊水道南部における黒潮流軸の高岸にとりなり、その分枝流の弱体化による結果とみられる。

両海域のプランクトンは前月同様、種類、量とも少く、また魚卵、稚仔の採集量も前月より減少



8月上旬水温、塩素量水平分布 (10米層) ※実線……本年点線……例年

では表層水温28~30°Cの高水温域となっている。播磨灘では表層27.8°C、米層25.8°Cを示し全域にわたって例年より0.5°C内外高目となっている。また両海域の北部沿岸域では、水域3-5m間近で水温が急変して成層をなしている。

一方塩素量は前月以降、両海域沿岸での降雨量は例年より少く(50耗弱減)、更に7月下旬から8月上旬にかけて極めて少いたため河川水の流入勢力も弱くごく沿岸域に低かん水は縮小されている。

した。ただ大阪湾北東部の高水温、低かん水域では葉脚類(Evadnesp)と環形動物幼体の異状に多いのが目立つほかは、赤潮になり易い種(N. octiluca, Ceyatiu m)は前月より更

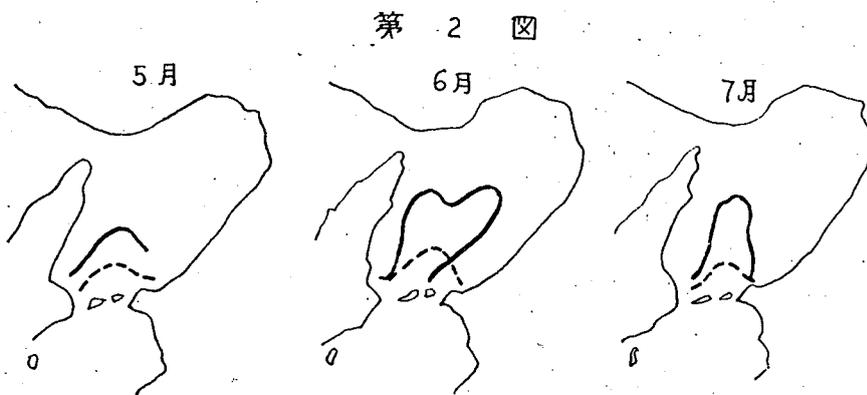
に減量し、黒潮水系の指標種とみられるOikopluyaも少くなっている。

(2) カタクチイワシの産卵状況

大阪湾、播磨灘におけるカタクチイワシの産卵は、第3報まで順次記述してきたが、8月上旬では両海域とも前月より大巾に採集数も減り、その分布域も播磨灘では、南部、大阪湾では北東部から南部海域でその範囲は縮小している。

過去10ヶ年の両海域におけるカタクチイワシの産卵状況は、大阪湾では5~6月と9~10月に盛期のある複峰型の年と、6~8月に盛期のある単峰型の年があり、播磨灘では6~8月に盛期のある単峰型である。

大阪湾の複峰型の年は、比較的暖冬で、前年春仔群を主とする産卵群が多く、かつ当才春、夏仔群も多い年であり、単峰型の年は比較的冷春で産卵始期まややおくれ、産卵魚群は前年夏、秋仔群が主体となる年である。一方播磨灘は大阪湾より水温変化(上昇、下降)の週期が大阪

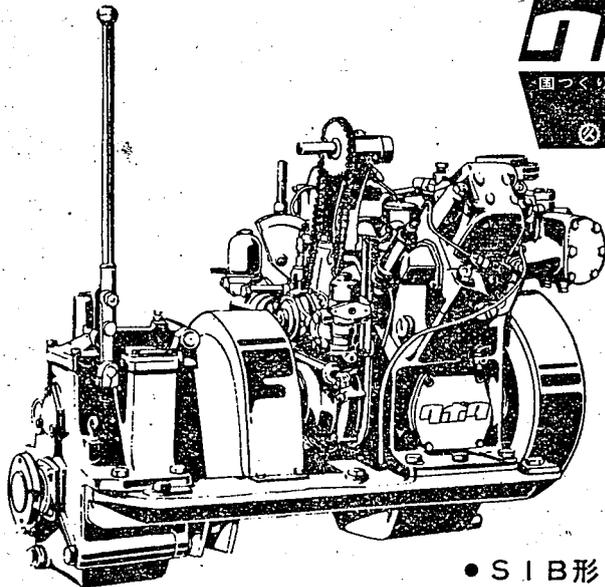


18%等塩線の変動※実線……本年点線……例年

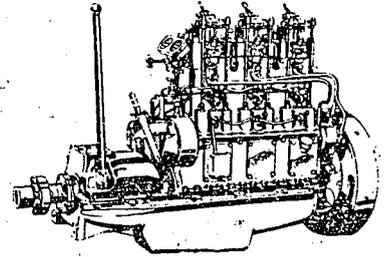
5~7月にかけて大阪湾南部では紀伊水道系水の圧流が目立ち、18%の等塩線は例年より北偏していたが(第2図)、8月上旬にはほとんど例年

〈ディーゼルの総合メーカー・クボタ〉主機用4~380馬力/補機用8~1,000馬力

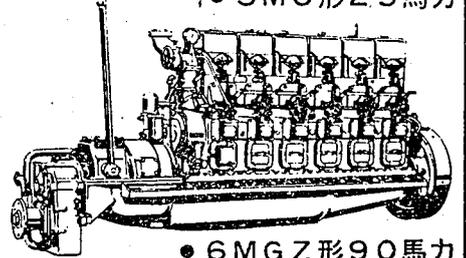
〈いつも漁場に一番のり〉 マリンディーゼル



● S1B形 10馬力



● 3MC形 2.5馬力



● 6MZ形 90馬力

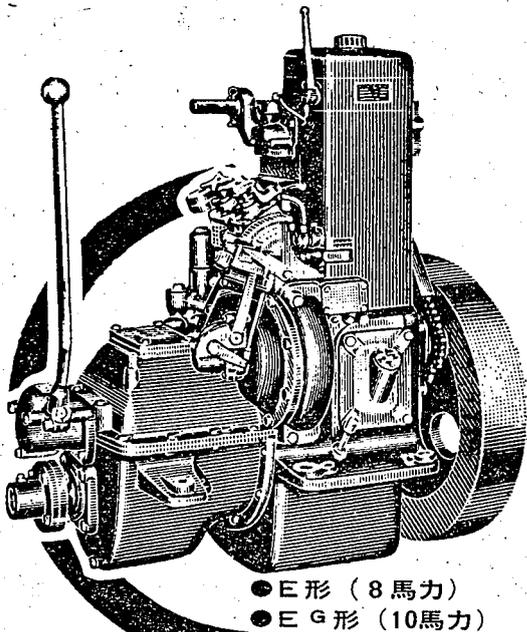
クボタ特約店

- | | | |
|---------|-----------|-----------|
| 平野 鉄工所 | 飾磨郡家島町真浦 | TEL 228 |
| " 飾磨営業所 | 姫路市飾磨区須加 | TEL 30124 |
| 南兵庫クボタ機 | 三原郡三原町市村 | TEL 134 |
| 阪神機船機 | 神戸市兵庫区門口町 | TEL 67549 |
| 橋立造船機 | 宮津市住吉 | TEL 2163 |
| 北兵庫クボタ機 | 美方郡浜坂町 | TEL 448 |
| 高米橋島鉄工所 | 城崎郡香住町 | TEL 471 |
| 寺坂鉄工所 | 揖保郡御津町岩見 | TEL 75 |
| | 赤穂市越越 | |

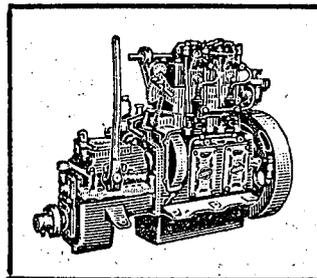
● 早く漁場へ、早く市場へ

ヤンマーディーゼル

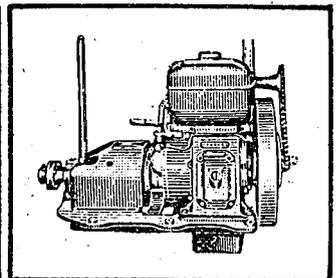
● 船舶主機用 / 3 ~ 800馬力



● E形 (8馬力)
● EG形 (10馬力)



● 2ST形 12馬力



● NTS70R形 3馬力



ヤンマーディーゼル株式会社

〈本社〉 大阪市北区茶屋町6-2
 〈支店〉 大阪・東京・福岡・札幌・高松・広島・金沢
 〈出張所〉 岡山・旭川・大分

発行所 神戸市兵庫区新在家町 123 兵庫県立水産会館内 兵庫県漁業協同組合連合会
 発行人 三浦清太郎